

岩屋通信第二十二号

早いもので今年もあと三ヶ月を切りました。

長崎では恒例の日本三大祭りの一つと言われる「長崎くんち」まで、出演する七つの踊り町で六月一日の小屋入りから十月の本番まで猛稽古が続いてきたこともあって、まだなんとなく夏の延長のような不思議な時期ではありません。

しかし、これからは稲刈りも済み、草木も色づき始め、さらに柿の木の梢でもズが啼き出すといよいよよ秋から晩秋へと動いていく感じがしてきます。

さて、前回の「岩屋通信」発行から少し間があいてたいへん恐縮ですが、八月二十四日(日)に子ども中心のレクリエーション大会を道場近くの西北・岩屋ふれあいセンターを借りて開催しました。

いつものように、名物のソーメンができるまで子ども

も達は、現場の高校英語教師という多忙の傍ら県キヤンブ協会の役員として長年にわたり青少年育成にも関わって来られた小島勝さん(二段)のリードのもと様々のゲームを楽しみました。



その後は和室にて、大平さんをコック長に一般会員や父兄らのお手伝いでおいしく茹で上がったソーメンを頂きました。

ちなみに総参加者数は、幼年部会員ら子どもが九人、その父兄が四人、それに一般会員(高校生含む)十一人、合計二十四人となり盛会のうちに午後終了しました。

世話や事前の買出しの担当の方々には特別にお疲れ様でした。



市民レクリエーション大会(長崎合気道連盟秋季演武会)

去る十月十三日の体育の日、諏訪体育館で開催された右記行事に、当道場からも三組の演武を出しました。

- ・ 自由技 野瀬ゆりこ 初段、吉田牧子三級
- ・ 自由技 二人掛け 森脇二段、田中侑一級、西脇大貴五級
- ・ 自由技 野瀬耕一六段 佐藤玄己幼年部八級 中村祐太幼年部八級

いずれの演武も日頃の稽

古の成果を發揮できたと思います。

特に、高校生や小学生の面々は、あのような大舞台でも怖気づくことなく堂々の演武は立派であったし、今後のあらゆる人生の岐路の際などに必ず活かせる経験だったと思います。

また、応援の当道場の皆様も有事の際に(?)いつでも代役で出場できるように、道着まで着用しての応援ありがとうございました。



趣味の話(2)

今回は「恐るべし、少年サッカー！」このお題でいってみたいと思います。

まず、何が恐るべしなの

か?そ当然了。はまるのです。興奮するのです。会員の皆さんでも子供さんがサッカー(ソフトボール等でも同じでしょう)をやら

れていたらわかると思いますが、自分の息子がボールを持って敵陣目指すとそれは熱くなります。ゴールでも決めてくれるものなら血湧き肉躍るといふ感じですよ。

先日、全日本少年長崎市予選と言つのがありました。その名の通り少年サッカーの全国大会の予選です。年に何回か公式戦があるので、この大会はその中でも一番規模が大きく全国のサッカー少年がこの大会を目指して頑張っているといつても過言ではありません。去年は私の会社の同僚の息子さんのチームが本県のチャンピオンになり、その息子さんも全国大会に出場しました。当然、その同僚も夫婦についていきました。か

2P 20年10月11日

なりの出費ですが、とつても嬉しそつでした。会社でもカンパを募つて応援したのですが、私が来年は俺がカンパをもらうんだと誓つたのは言つまでもありません。

さて、先日(平成20年)の試合ですが、長崎市内36チームがまず4チームから5チームの8グループで1次リーグを戦います。

そこで2位抜けまでに入るとさらに16チームを4グループに分けて2次リーグを行います。そこで1位抜けチームが4チーム決まります。さらに2位抜けの4チームで3次リーグを行い、そこで2位までに入る

と、先の1位抜け4チームと一緒に6チームが県大会に出場できます。

息子のチームは長崎市内でも実力的にはちょうど半分くらいのチーム。目指すは県大会出場です。

1次リーグでは、なんと初戦で5対0で破れ、さらに次の試合では1対1の引き分け。最初から躓きました。1次リーグを2位抜け

であるためには、後日行われる次の2試合を大勝して、今日引き分けたチームが1位のチームに大負けしてくるしかありません。

今日戦つたチームはいずれも強くて、次あたるところは格下だと言つこともありますが、子供達も親たちも少し難しいなという感じでした。

しかし、少年サッカー何が起こるかわかりません！後日行われた初戦、なんと我がチームは14対0で勝利！次の試合も10対0で勝利！我が息子はデイフェンダーなのであまりシュー

トチャンスはないのですが、なんとこの試合でフリーキックを一発決めてくれました。監督が息子に蹴れと指

示。息子が蹴つたボールは相手チームのキーパーの頭上を越え、ネットに突き刺さりました。この瞬間監督、コーチは立ち上がりガッツポーズ。私も両手を突き上げて「やったー！」と大声付きのガッツポーズです。

アドレナリン急上昇です。血圧も上がりますがかまっちゃ居られません。この後2位につけているチームを得失点差でかわし、めでたく2次リーグ進出を決めました。2次リーグもまったく1次リーグと同じく他力本願の結果になったのです

が、さすがに2匹目のどじょうというわけにはいかず、3位で終わり子供達の全日程が終わりました。でも子供達以上に親がワクワクドキドキさせてもらって本当に感謝です。

こういう興奮が我々のチーム以外にも35チーム分あるわけですから、少年サッカーの会場つてすごく熱いですよ。

さて、話は変わりますが、少年サッカーでは5、6年生位の年の子をゴールデンエイジと呼ぶそうです。これはどういう事かと言うと、監督やコーチから言われたことを頭で理解して、それを即、体が実行出来る希少な年代らしいのです。要するに技術を習得するのに一番条件が良い年代らしいのです。言われてみれば合気道の子供達でも、体さばきをいとも簡単に覚えますが、そういうことだったんだと納得できました。ですから、良くわかつたサッカーの監督さんはこの時期には子供達に過度の走り込みをさせたり、筋トレさせるのではなく極力技術習得に力を注ぐと言つことです。

息子のチームの監督はこの点すごく研究されていて、ゲームで押し込まれても安

易にクリアするのでなく、自陣からでもパスやドリブルの技術でつないで持つて行くように指導しています。当然そうすれば負けるリスクは大きいのですが、監督は今のスタイルで小学校では勝てなくても中学校、高校で花開けば良いと言うスタンスです。我々もその考えに賛同して、安心して子供を預けているわけです。

私も規模は違いますが一応幼年部の指導者という立場ですので、この監督の指導方針がすごく参考になつており、幼年部の高学年クラスには極力たくさん技を教えようと考へて指導しています。

趣味の話、まだ続きます！次回もお楽しみに(村里)

寂然不動

今月は、紙面の関係での稽古休み日のみ連絡・十一月十六日と十二月十四日です。お忘れなく。